

エビフリモちゃんの「医療現場へ突撃インタビュー」

みどり市民病院 消化器外科医の 若杉 健弘先生に聞きました!!

太ももの付け根がふくらんできたら…それ、放っておいて大丈夫？

鼠径ヘルニアのはなし



名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院
消化器一般外科 准教授/部長

若杉 健弘

[わかすぎ・たけひろ]

1994年 名古屋市立大学医学部卒業 博士(医学)外科専門医、消化器外科専門医
専門は上部消化管(胃外科)、外科感染症

はじめに

最近、太ももの付け根がふくらんできたと悩んでいる方はいらっしゃいませんか？それ、もしかしたら鼠径(そけい)ヘルニアかもしれません。今回は、鼠径ヘルニア(脱腸)についてご説明いたします。

鼠径ヘルニアとは

鼠径ヘルニアとは、腹腔内の臓器や脂肪が鼠径部(太ももの付け根付近)から皮下に脱出する病気のことで、「脱腸」とも呼ばれます。

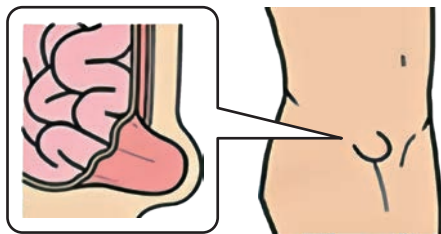
原因

成人の鼠径ヘルニアは、加齢や筋力の低下、重いものを持つことによる腹圧の上昇などで、腹壁(特に鼠径管周囲)の筋膜が弱くなり、すき間ができることで発生します。肥満や慢性的な咳、便秘などがリスクと考えられます。高齢の男性に多いですが、女性でも発症します。腹壁の弱い部位により、外鼠径ヘルニア、内鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアと分類されますが、症状や治療方法は同じです。

症状

初期症状としては、鼠径部にふくらみを自覚し、立位や咳、いきみ時に大きくなるのが特徴です。多くは痛みを伴いませんが、徐々に違和感や鈍痛を覚えることがあります。仰向けになるとふくらみが消えることもあります。片側だけのこともあれば、両側にできることもあります。

図1 鼠径ヘルニアの発生部位と病態



かんとん(嵌頓)の危険性

嵌頓とは、脱出した腸管などが元に戻らなくなり、血流が途絶えてしまう状態で、激痛を伴う緊急事態です。放置すると腸は壊死してしまい、緊急で腸切除を伴う開腹手術が必要になる可能性もあるため、早期の対処が必要となります。

図2 嵌頓とは



治療方法

自然に治ることはありません。根本的な治療は手術です。症状が軽くても、嵌頓のリスクがあるため、基本的には計画的な手術が推奨されます。手術の方法としては、「腹腔鏡下手術(TAPP法)」と「鼠径法(前方アプローチ)」の2つの代表的な方法がありますが、いずれの方法でもメッシュという補強材を用いて腹壁の弱い部分を補強します。

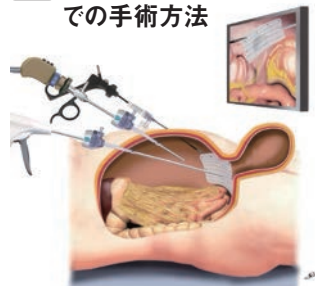
図3 術式による手術創の違い



腹腔鏡下手術と鼠径法の違い

①腹腔鏡下手術(TAPP法)は、全身麻酔下で腹腔内からヘルニア部位を修復し、メッシュを留置する方法です。片側性でも両側性も手術の傷は同じです。全身麻酔は必要ですが、術後の痛みが少なく回復も早い傾向があり、広く行われているようになっていきます。

図4 腹腔鏡下手術(TAPP法)での手術方法



②鼠径法(前方アプローチ)は、鼠径部を直接切開してヘルニア嚢を整復し、メッシュを用いて腹壁を補強する方法です。局所麻酔でも行えるため、高齢者や全身麻酔が困難な症例などに適しています。

おわりに

成人鼠径ヘルニアは自然に治ることはなく、嵌頓のリスクもあるため、計画的な手術が推奨されます。患者さんの年齢や全身状態、ヘルニアの種類に応じて、適切な術式を選択することが重要です。腹腔鏡下手術と鼠径法にはそれぞれの利点があり、それぞれの患者さんの状態に応じて、術式は選択されます。

Information

予防医学が紡ぐ 幸せな健康未来 ～みどり市民病院の挑戦～

人生100年時代、自分自身はもちろん、大切な家族の健康を守る予防医療。大切な人の【小さな異変に気付く】【ちょっと生活習慣を見直す】きっかけを見つけてみませんか。

